

館報

庄内



庄内地区	
平成30年1月1日現在人口	
世帯数	6,874戸
男	7,481人
女	7,458人
合計	14,939人

発行 庄内地区公民館
(ゆめひろば庄内)
電話 24-1811
FAX 24-1812

話題は人と人との 繋がりから生まれる

やっぱり繋がりがよだね。戦後も最初にできたのは「人と人との繋がりが」。今の世の中は、非常にグローバル化され、個々が重視される時代では昔みたいな繋がりは生まれない。だから『繋がりを大事にしよう』というのが公民館活動だと思う。

そんな人と人を繋ぐ庄内地区公民館だが、好立地なので地区以外の人の方が多く利用している。もっと地元の人が利用してくれれば、地域の話話が拾えるんだが…。

取材、編集方法も掘り下げれば、 もっと面白くなる！

記事として掲載するだけではなく、「話題があった」→「ちょっと進展して」→「提案する」そんな方法もおもしろい。〇〇がありました…というだけの報告掲載ではつまらない。

例えば、「季節の伝統行事を記事にする」→「伝統行事にちなんだ遺構等を調べる」→「昔と今の比較」や「現代に通じる問題点」といった連載記事を組み立てる。というのはどうだろうか？

また、庄内地区には隠れ歴史家がいっぱいいるので、謎解き風に編集すれば、館報を見て「俺も知ってる、話したい」という人が出てくるかも。

館報って読んでもらっているのかなあ？

沢山の市の発行物の中に挟まれているので、中々読んでもらえないかもしれないね。一世帯に一冊配布されるので、お年寄りには比較的目を通してもらえが、若者はまず見ない。最近では町会に入らないアパートやマンション住まいの人も多く配られないお宅もあるしね。そうなる『館報って必要？』っていう考えも議論になるけれど、その見方が正しいのか、残っている大事さが正しいのか、今後どうなるんだろかね？

公民館って財産だよな！

松本市の公民館活動は全国的に有名で、東大の先生も入って研究まですしている。

昔は住民が集まる場所がなかったが、今では子ども育成会や色々な団体が集える場所として地区公民館や福祉ひろばがある。この場所は郷土愛を養うためにとてもいい環境だと思う。そこから色んな繋がりを作っていくことが、公民館活動の原点だと思う。

公民館報で何を伝えようか！
公民館報編集委員の
この話題を乗せようか！

本音トーク



座談会を終えて

館報編集委員の座談会も最初は「館報をどう魅力的に編集しようか！」「話題不足をどう解消しようか！」と、真剣な会議でしたが、熱く討議しているうちに、「公民館とは」「公民館活動の大切さ」「隠れた庄内地区の謎めいた話」へと盛り上がり、最後には「人と人の繋がりがこそが大切」という大きな課題まで登場する場となりました。

編集委員は、地域のさまざまな話題を取り上げたいと考えています。公民館へ皆さんからの情報をお寄せください。お待ちしております。

このままでいいのかな？ 館報編集委員の体制は！

昔は各町会の公民館長が委員メンバーだったから、各町会の困りごとや様々な情報が得られた。今の編集委員体制は町会代表ではないので、町会の動きが全く見えない。庄内地区は松本市の人口で4番目に多いのだから、沢山の話題が眠っているはずなのに、館報に掲載したい話題や情報が編集委員視点に偏りすぎてしまうね。

「餌場について」

以前軽井沢に熊が出てゴミを漁る、という記事を見た。それから何年も経って、今は山間部の田畑にハクビシンや猿が来て作物を食べてしまう。村人は総出となり花火で追い払ったり、電線で畑を囲ったりしている。素人の私達は菜園にそんなお金をかけられず、食べられてはガツカリするばかり。動物の食べないものを作るしかない。

先日は田川の河川敷に鹿が来てニュースになった。山の動物が里においてくるのは山に餌がないからだろうか。山をあまりにも開発してしまい動物達の餌が減ったのだろうか。私も作物がとれないのは困るが、同じ生き物としては食物がないのは生きられないということだ。人間の欲で動物の餌場を破壊しすぎていいのだろうか。以前は、動物は山に、人は里にと住み分けができていた。昔に戻ることはできないが、加減をして賢く住み分けることはできそうな気がする。自然保護というのは少しおこがましい気がする。私達人間も同じく食べる物が必要な動物の一種であるから。

(K)

出川町町会

町の歴史

公民館前に町名の由来を刻んだ石碑があります。

昭和初年の旧町名『出川町』『当地域には弥生時代から中世に至る遺跡があり、その歴史は古い。中世までは高原瀬と言われていたが、地下水が豊かな湧泉地帯であり、小川が無数に流れ出ているので、出河川(でがわ)、後に出川(いでがわ)と呼ばれるようになったと伝えられる。町名は出河川里→出河川村→出川

町→出川町村→出川町などと変貌した』と刻まれています。弥生時代からの遺跡も数多く出土したり、弘法山古墳も出川町の飛地とあり歴史のある地域であると思います。

出川町町会が昭和47年に現在の出川町第一町会・出川町町会がそれぞれ独立し現在に至っています。

公民館活動

現在の公民館活動は新年初顔合せ会、ふれあい会食会、両町会球技大会、敬老会は両町会合同で行い、献立、企画、司会進行などを交代で行っております。

出川町独自の行事は出川町バスハイク・町内の草刈・防災訓練などがあります。出川町バスハイクは毎年開催され、30名程の町民が参加して、日帰り生坂村、トンボフェスタ観光、やまなみ荘で楽しい交流会をしております。

町会の組織

町会長、副会長2名、会計、社会部、交通安全部、保安部、衛生部、監事、組長、理事、公民館委員、大慈堂委員、民生児童委員、健康づくり推進委員、多賀神社総代、二三四会、小中PTA、防犯協会女性部、防犯指導員、子ども会育成会

赤十字奉仕団、商工会などがあります。

楽しい町作りをモットーに活動しております。

防災の備え

防災訓練は年二回開催しております。防災井戸、発電機、消火器、大鍋、消火栓ホースなどいざと云う時の備品は備えてありますが、災害の無いことを日々祈るこの頃です。

少子高齢化が進み町会の活動もしいに危ぶまれる時が来つつあります。地域の皆が仲良くそして助け合いながらの活動が出来ればと思っております。(K・S)

館報編集委員を募集します!

館報編集委員会では、来年度から編集委員になってくださる方を募集しております。

現在、委員会は8名で活動しており、伝統行事や地域活動の紹介、身近な課題を深く掘り下げて考える等、様々な情報を庄内地区の皆さまへお届けしております。

取材や記事執筆にご興味がある方や経験をお持ちの方、また地域での活動の場をお求めの方、ご連絡をお待ちしております!

応募資格

● 応募資格
庄内地区にお住まいの方

募集定員

● 募集定員
若干名

活動内容

● 活動内容
館報に掲載する記事の取材及び執筆、月1回開催される館報編集委員会への参加

採用

● 採用
平成30年4月1日

申込方法

● 申込方法
平成30年3月30日(金)までに左記申込先へご連絡ください

申込先

● 申込先
庄内地区公民館 担当 奥原

(受付時間 平日8時30分～17時15分まで)

☎ 24-11811

南新町2丁目町会

歴史・地名の由来

南新町は大正3年4月に区長制がしかれ、この際に命名されました。町名の由来は、女鳥羽以北の新町(江戸時代の武家屋敷町)に対して、川南にあたることにより命名されました。当初、南新町は1丁目、2丁目、3丁目まであったと記録に残されています。

町会の現状

昭和20～30年代は、約90世帯(長屋が多くあった)ほどあり本通りには商店が多く、

買い物が町内で間に合いましたが、現状は個人、企業、アパートを合わせ65世帯と小規模の町会です。

町会活動について

町会活動の中で長年続き誇れる活動がふたつあります。

三巨匠マラソン

この活動は本年度で第34回を迎えました。発足時は新年会に変えて、老若男女の町民が一同に集まり、元旦に体を動かして新年の挨拶を交わし、一年間平穏に過ごせることを願い、始めたとのこと。

無理なく走るため、田川の庄内橋から新庄橋の河川敷を回

周するコースを設定し現在に至っています。活動当初は各世帯とも家族が多く盛大に行われましたが、近年は参加者の年齢が上がりウォーキングに変わってきました。

ファミリースポーツまつり

町民が多かったころは、青年部が中心となり、運動会、地区野球など体を動かす活動がありました。近年は参加者が少なくなり、考え出した活動がファミリースポーツまつりです。

この活動も本年度で第17回となりました。当初はまつりと空港の信州スカイパークに

記録として、写真を取り町内公民館に掲示してありますので機会がありましたらご覧になってください。

近年は、両活動とも参加者が減少傾向ですが、工夫をこらし末永く継続できるようにしてゆきたいと思っております。

